

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 高井 たかね				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	講読
題目	漢書講読								
【授業の概要・目的】									
日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下の内容に従い授業を進める。 清、李漁『閒情偶寄』器玩部をテキストとする。 今年は器玩部・制度の序を読んだあと、「茶具」の條から読みすすめる予定。 語法の確認をしながら、漢文読解の訓練をおこなう。 出席者に訓読および現代語訳をしてもらう。担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。 毎回の進度は、はじめは半葉程度になるかと思われる。これが2, 3回続くと、一回に一葉程度は進むようになる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価 授業時の訓読・現代語訳のほか、出席も考慮する。									
【教科書】									
漢和辞典が必要。 テキスト、参考資料はコピーを配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									